

【話題の提示】— 人間とチョウの世界をひっくり返す「環境」という言葉は、従来の「環境」という言葉とは全く異なる意味がある。

具体例

1 「草原に木が点々と生えている」と言われ、われわれは「全体を見る」と言われ、その「全体が環境」といふ点々とした草原全体を環境と見る。しかし、チョウにとっては、草原全体がその世界ではない。アゲハチョウにとっては、草原自体はその世界の中には存在しておらず、その草原に生えた、日の当たっている木だけが世界である。モンシロチョウにとっては木は存在していない。同じく、大事なのは日の当たっている草原である。同じく、この場所を見たとき、人間とモンシロチョウとアゲハチョウとでは、世界はまったく違っている。ひっくり返した「環境」という言葉は、従来の「環境」という言葉とは異なる。それによって、それを密着した環境と呼ぶことは、彼らにとっては意味がない。

よりの抽象度の高いのは最後の一文。だが、これだけだと何を言っているのか分からない。直前の文もそれ以前のままとめとめており、セットで考える。

【考察】— 大切なのは環世界 —

2 「環世界」という言葉は昔は「環世界」と訳されていた。これはユクスキルが客観的な意味での環境というのを否定して、主体の動物が積極的に構築している世界が問題だと言ったことを考へてみたとき、環世界というこの言葉は、彼の言ったことを否定した訳語になる。それは、その意味がないと思ったので、ほくは環世界という言葉を提唱している。とにかく大切なのはこの環世界であって、一般的な環境が問題なのではない。

話題の理由 (シャブ)

具体例

3 「たとえば」われわれが「良い環境」と言っている、それは清潔で安全で静かで、適当に木の緑があり、しかし「雑草」は生い茂っていないところを指すことが多い。しかもそこは教育的にも買えないものでも、また交通の上でも適度に便利な必要がある。それは一般的な自然環境の問題ではなく、勤め人や通学生がいる一般家庭にとっての環世界の問題である。昔よく言われた「孟母三遷の教え」なども、この範疇のことである。

4 緑の木も毛虫がつかない木のほうがよく、秋の落ち葉に手のかからないことが望まれる。夏にホタルが飛んでくれたら最高だが、カヤハチはいてほしくない。人びとが価値を与えるのは、そのように限定されたものに対してである。

話題の理由 (スターター)

5 【主張】— 人間にとっての良い環境で動物は環世界を構築できない —
そうなるこのような人間にとって良い環境は、チョウとカテンボとカテナトウムシ、小鳥などにとっては、決して良い環境ではない。このように動物たちがいる場所が、自分たちの環世界を構築しえない環境であろう。われわれが何気なく「環境」という言葉をくちにするとき、それは、このようにこのような環世界の問題が関わっているものである。

その大切なのは二文目。ただし、指示語が多いので二文目とセットで考える。

日高敏隆『動物と人間の世界認識』二〇〇三・一一

要約例

世界を「環境」という言葉でへへへってはならない。大切なのは環世界で、一般的な環境は問題ではない。人間の「良い環境」とは環世界の問題であり、このように人間にとっての良い環境で動物は環世界を構築できない。(九八字)

※要約のポイント — 意味段落は本質 (抽象・一般) 的な文を中心に見つける

意味段落は抽象的に論じている部分を中心に考えたいです。評論文の部分は大きく「具体」と「抽象」にそれぞれ分けることができます。抽象の部分を軸にして意味段落は構成されるはずなので、抽象的な部分を探していくと意味段落は見つけやすい。